

樫井川水系河川整備計画（変更原案） についての住民説明会

平成27年11月11日(水) 19時～20時30分
泉佐野市 生涯学習センター
13日(金) 19時～21時
泉南市 新家公民館

本説明資料は、大阪府河川室ホームページでも見るすることができます。
(アドレス http://www.pref.osaka.jp/s_kasen/)

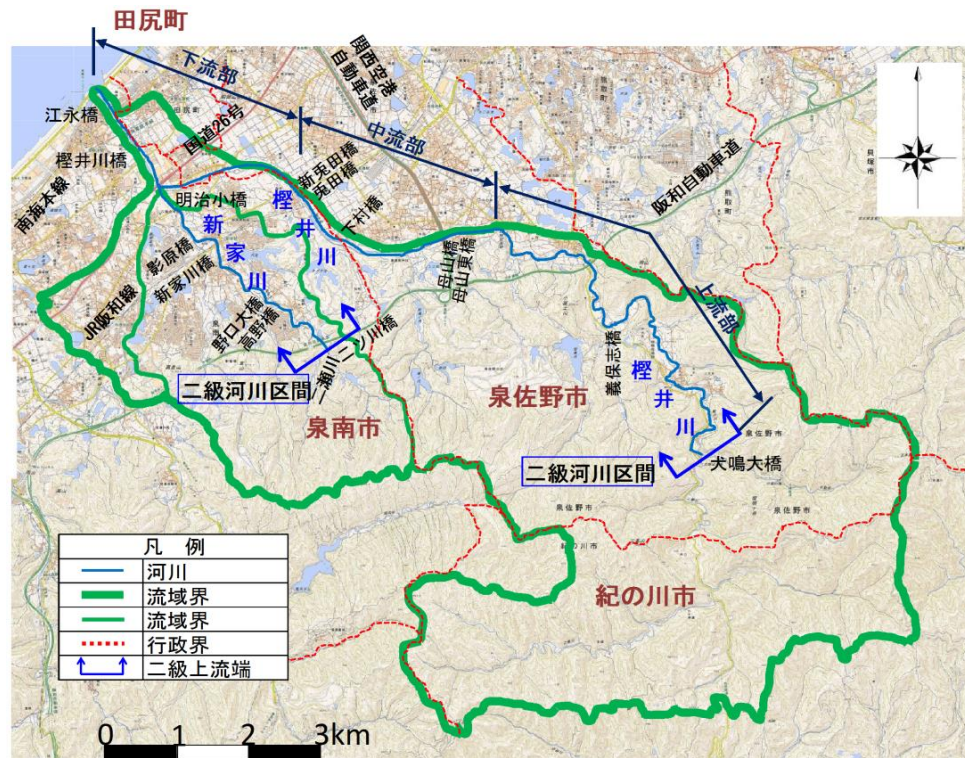
1. 樫井川水系（流域）について
2. 大阪府の目標
3. 樫井川水系整備計画（変更原案）
 - 3.1 樫井川水系の目標
 - 3.2 樫井川水系で実施する整備
 - 3.3 流域全体で実施する対策

1. 樫井川水系（流域）について

流域の概要

樫井川水系は、その源を和歌山県紀の川市の山中に発し、北西方向に流下し、河口から上流約1.8kmで新家川と合流し泉南市において大阪湾に注ぐ二級河川です。

- 流域市町：大阪府泉佐野市、泉南市、田尻町
和歌山県紀の川市
- 指定区間延長 樫井川16.3km／新家川4.4km
- 流域面積 樫井川56.56km²／新家川11.70km²
- 流域内の土地利用は、下流～中流では農地の占める割合が高く、上流では渓谷の占める割合が高い。
- 流域には、歴史・文化・観光資産が多く存在する。



2. 大阪府の目標

将来目標「大阪府河川整備長期計画 H8.3策定」

○府管理の全河川について、時間雨量 80ミリ程度※³の降雨でも、川があふれて、家が流され、人がなくなるようなことをなくす。

※1 時間雨量80ミリ程度の降雨は、100年に一度発生する恐れがある降雨

- ・府管理河川全体で、目標達成に約1兆400億円、約50年必要
- ・治水施設で防げない洪水に対する総合的なリスク対策が必要

当面の治水目標「今後の治水対策の進め方 H22.6策定」

【基本的な理念】人命を守ることを最優先とする。

【取組み方針】

- (1)現状での河川はん濫・浸水の危険性に対する府民の理解を促進する。
- (2)「逃げる」^に「凌ぐ」^しの^ふせ^せ施策を強化するとともに、「防ぐ」^ふせ^せ施策を着実に実施する。
- (3)府民が対策の効果を実感できる期間（概ね10年）で実現可能な対策及び実施後の河川はん濫・浸水の危険性をわかりやすく提示する。

【当面の治水目標（今後20～30年）の設定】

○時間雨量50ミリ程度※²の降雨で床下浸水を発生させない。かつ、事業効率等を考慮し時間雨量65ミリ程度※³もしくは時間雨量 80ミリ程度の降雨で床上浸水を発生させない。

【河川情報の提供】

○住民が的確に避難行動がとれるよう、河川氾濫や浸水に対する情報提供に努める。

※2 時間雨量50ミリ程度の降雨は、10年に一度発生する恐れがある降雨

※3 時間雨量65ミリ程度の降雨は、30年に一度発生する恐れがある降雨

2. 大阪府の目標

地先の危険度
低減に向けた

総合的・効果的な治水手法の組合せ

河川

治水施設の整備・保全 (防ぐ) 河川堤防の決壊によるはん濫をできるだけ回避する等、河川を流れる水は可能な限りあふれさせない。(河川改修・堆積土砂除去など)

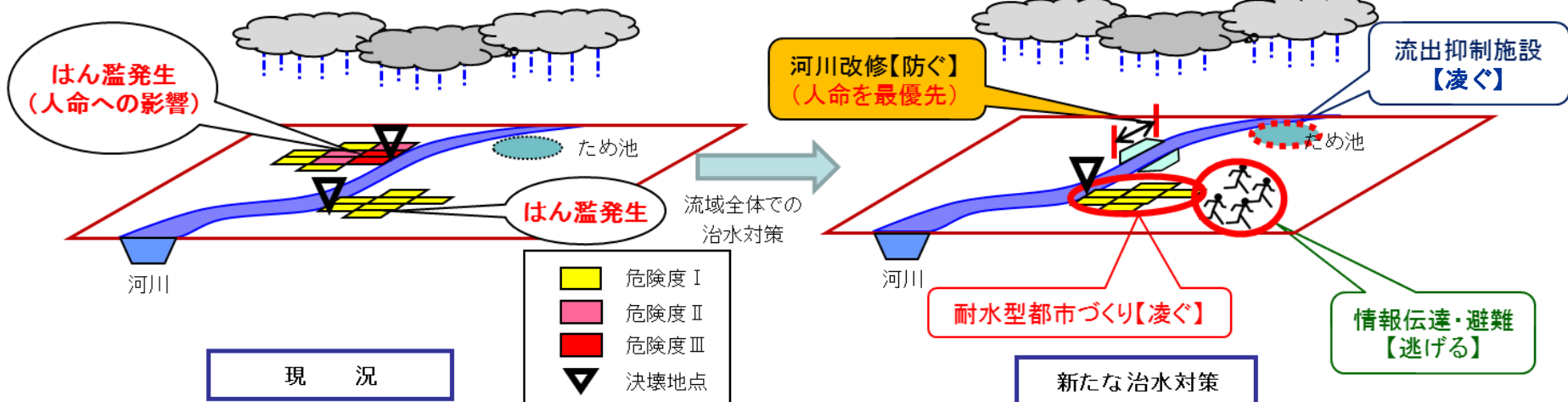
流域

流出抑制 (凌ぐ) 雨が降っても河川へ出る水量を減らす。(家庭での貯留施設の設置やため池の治水活用等)

耐水型都市づくり (凌ぐ) 河川からあふれても被害が最小限となる街をつくる。(家屋の耐水化・高床化などの促進)

情報伝達・避難 (逃げる) 河川からあふれそうなときはできるだけ早く逃げる。(洪水はん濫・浸水による危険性の周知、避難体制づくりの促進等)

< 流域全体での治水対策イメージ >



3. 樫井川水系河川整備計画（変更原案）

河川整備基本方針・計画

【河川整備基本方針とは】

○河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針（治水・利水・環境）を定めたもの。

【河川整備計画とは】

○河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

※河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。
樫井川水系では、H14.2月に河川整備基本方針、H16.6月に河川整備計画を策定。

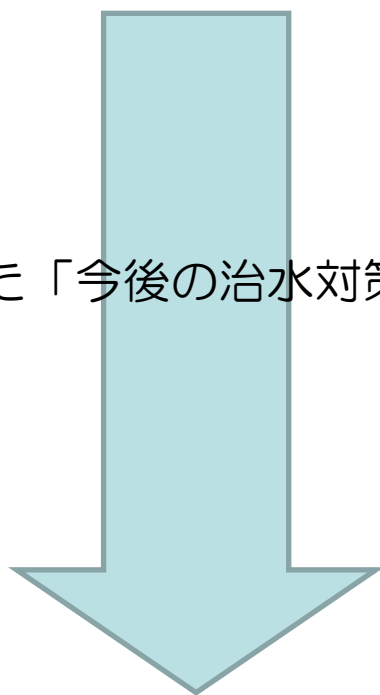
3. 樫井川水系河川整備計画（変更原案）

■ 樫井川水系河川整備計画の策定（H16.6月）

- 樫井川水系の河川整備の当面の目標を定めたもの。
- 計画対象期間：概ね10年

- H22年に大阪府が策定した「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水計画の見直しを行ったこと

など



■ 樫井川水系河川整備計画（変更）の策定を行う。

3. 樫井川水系河川整備計画（変更原案）

河川整備計画の策定フロー

河川整備計画（変更原案）



← 学識経験者からの意見

大阪府河川整備審議会※（および治水部会など）
において審議

← 住民の皆様からのご意見

本日

内容の説明およびご意見の聴取

河川整備計画（変更原案） **住民の皆様のご意見を反映し修正したもの**

河川整備審議会にて了承の場合

河川整備計画（変更案）



← 地方公共団体の長の意見

← 国土交通省の同意・認可

河川整備計画 **策定**

3. 樫井川水系河川整備計画（変更原案）

樫井川水系河川整備計画の主な変更点

- 「今後の治水対策の進め方」に基づき、治水・利水・環境の取り組みを見直し
- **当面の治水目標を新たに設定**
 - ⇒ 樫井川では、**時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができることから、現状の治水能力を維持。**
 - ⇒ 新家川では、JR阪和線上下流の約100m区間で、事業効率等を考慮して、**時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水で床上浸水を防ぐことを目標。**
- **計画対象期間を変更**
 - ⇒ 概ね10年から概ね30年に変更
- **良好な河川環境が保全されるよう河川環境、維持管理に関する事項を充実**
 - ⇒ 整備範囲および内容を明確化
- **住民が的確な避難行動をとれるよう河川情報の提供に関する事項を充実**
 - ⇒ 洪水リスク表示図、雨量・水位データの公表、住民の安全な避難行動・地域防災活動の支援など

3. 樫井川水系河川整備計画（変更原案）

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の計画対象区間
5. 河川整備計画の計画対象期間
6. 本計画の適用

第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

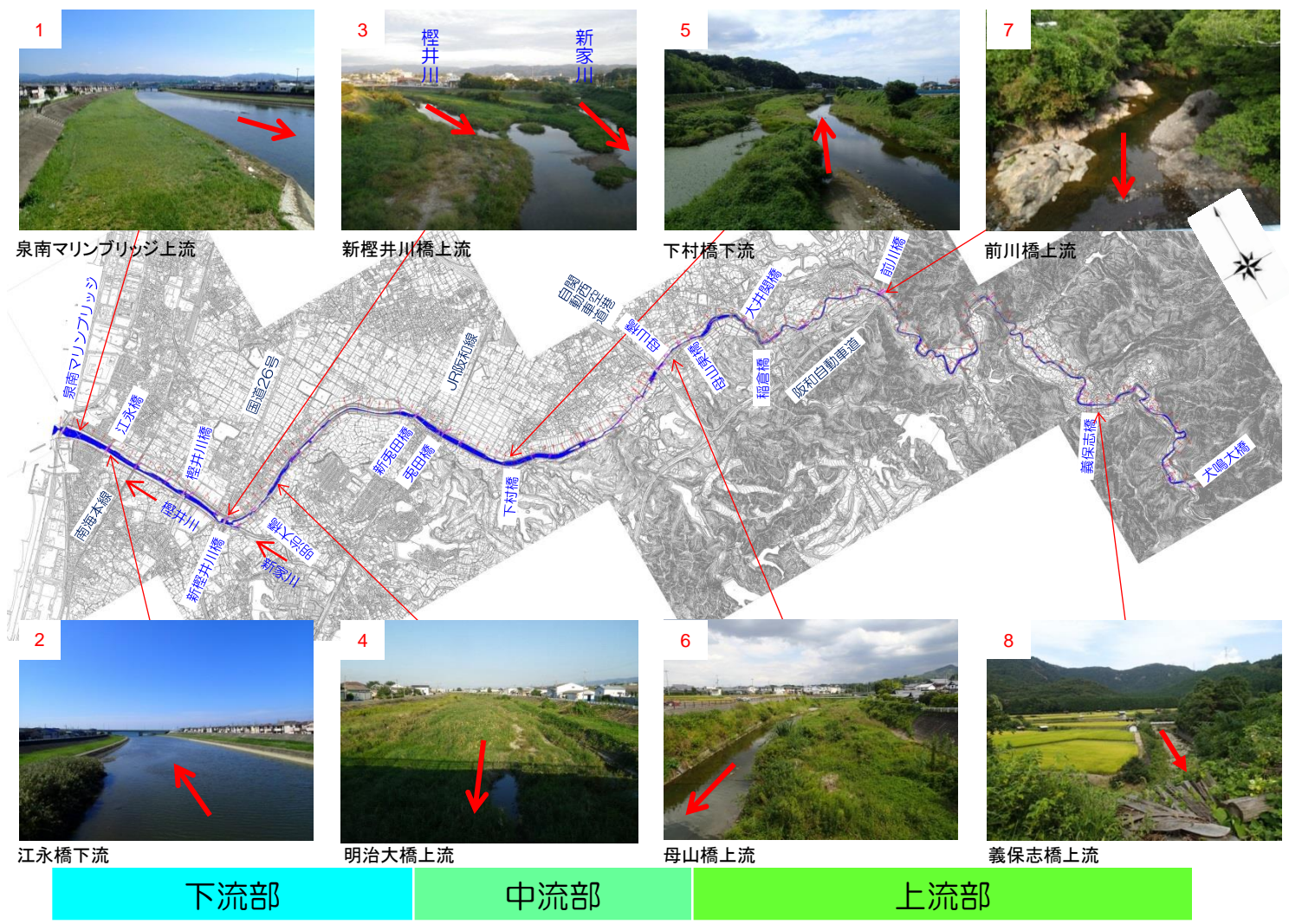
第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項

3.1 榎井川水系の目標

河川特性

下流～中流部（河口～母山東橋上流）：主に農地を流れている。河道内に発達した砂州には植生がみられ、高水敷も含めて緑の多い自然空間を形成している。
上流部（母山東橋上流～犬鳴大橋下流）：温泉街のある溪谷、集落や水田が点在する里山を緩やかに蛇行を繰り返して流れている。



河口～新兎田橋 L=約4.2km 新兎田橋～母山東橋 L=約3.3km 母山東橋～犬鳴大橋下流 L=約8.8km

3.1 榎井川水系の目標

河川の特性

主に農地を流れている。河道内はコンクリートブロック積の護岸が多く人工的な景観を呈するとともに、取水堰の影響による河道内の湛水が目についている。



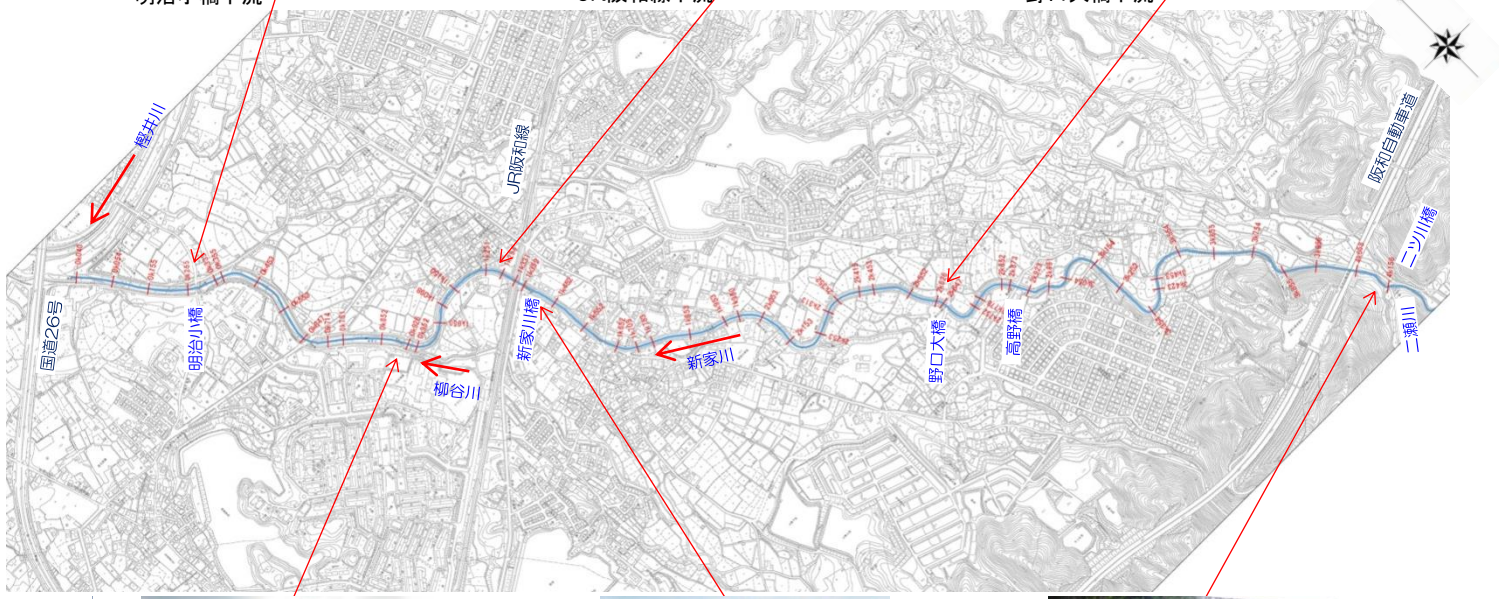
1 明治小橋下流



3 JR阪和線下流



5 野口大橋下流



2 影原橋上流



4 新家川橋上流



6 二ツ川橋下流

3.1 樫井川水系の目標

自然環境の特性

- 気候は、温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は全国平均と比較して少ない。
- 樫井川水系は、主に農地を流れており、緑の多い自然空間が形成されているとともに、魚類や底生生物、水辺の植生等が生息、生育している。

- 魚類：コイ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、モツゴ、ブルーギル、カダヤシ、タイリクバラタナゴなど
- 底生生物：サカマキガイ、アメリカザリガニなど
- 鳥類：キョウジョシギ、チュウシャクシギ、イソシギ、メダイチドリ、アオサギなど
- 植物：モチツツジ・アカマツ群落、シラカシ、ソメイヨシノ、セイタカアワダチソウなど
- 貴重な種：タモロコ、ミナミメダカ、ヒラテテナガエビ、シロチドリなど



3.1 檜井川水系の目標

社会環境の特性

檜井川流域には、府内有数の縄文時代の遺跡である三軒屋遺跡、古墳時代の新家古墳群等の埋蔵文化財、熊野街道、意賀美神社（国指定重要文化財）等の歴史的地物・文化財があります。日根荘大木の農村景観は、平成25年に大阪府で初めての「重要文化的景観」に指定されました。

檜井川上流部には日本最古の霊場で知られる犬鳴山七宝滝寺や、摂社幸神社本殿が国指定重要文化財に指定されている火走神社があります。流域の下流部には檜井古戦場や海会寺跡等の史跡、中流部には慈眼院多宝塔や大井関公園等の名所があります。



熊野街道



意賀美神社



農村景観

大木の様子



犬鳴山七宝滝寺



海会寺跡



大井関公園

3.1 櫛井川水系の目標

治水の現状と課題

過去の被害状況（櫛井川水系）

- 昭和57年7月～8月の豪雨、台風10号：床上浸水3棟、床下浸水67棟
- 昭和58年5月～7月の豪雨：床下浸水20棟
- 昭和63年6月の豪雨：床下浸水10棟
- 平成元年8月～9月の豪雨：床上浸水2棟、床下浸水1棟
- 平成5年2月：床下浸水3棟
- 平成7年6月～7月：床下浸水17棟



河口部の高潮対策区間については、伊勢湾台風級の超大型台風に対応できる防潮堤防が完成しています。

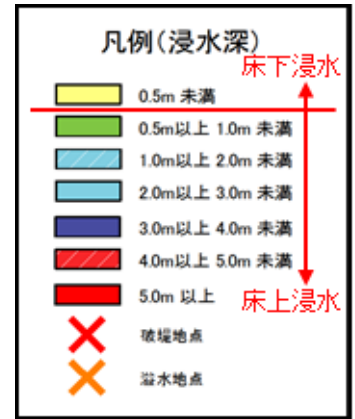
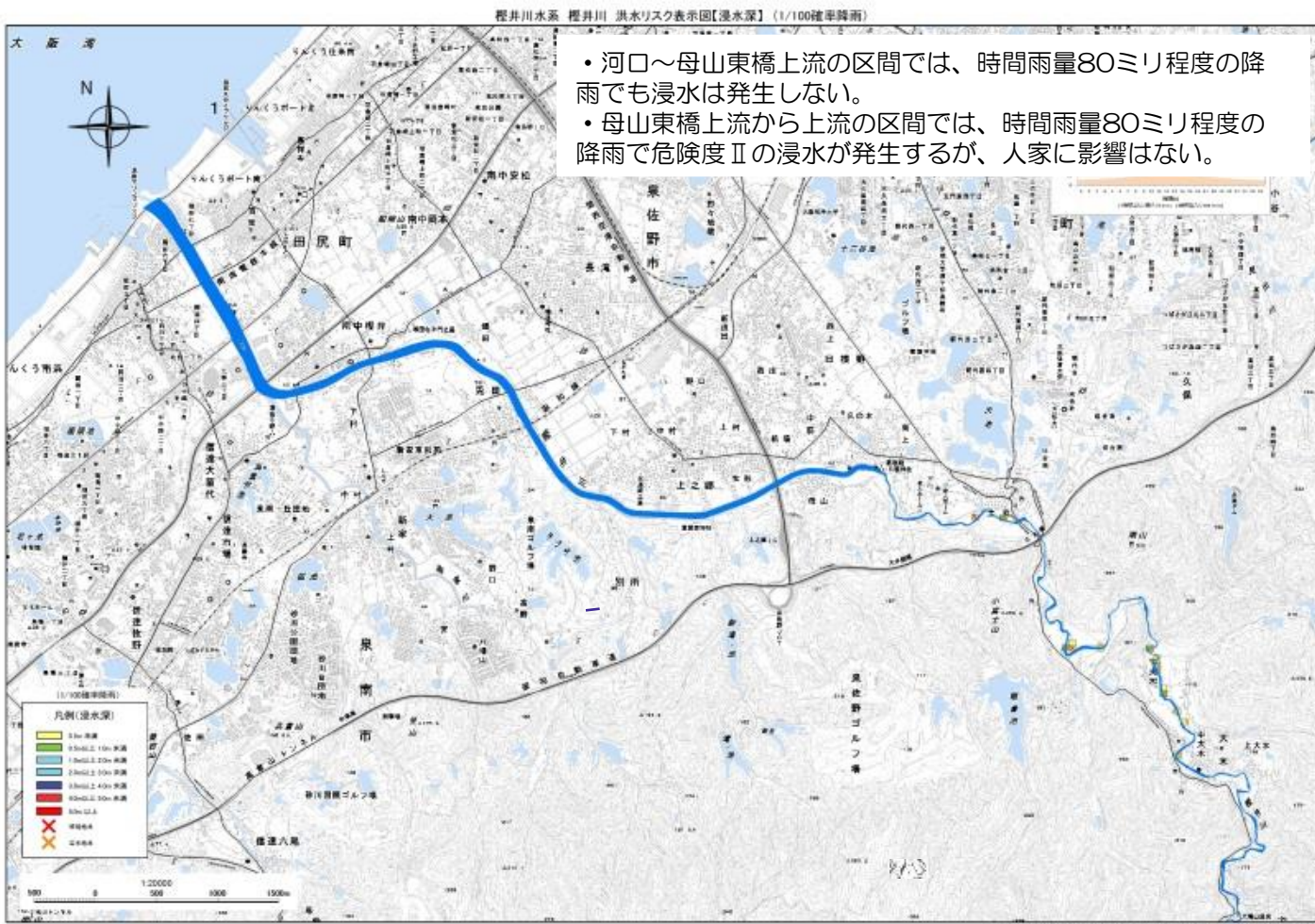
また、河口部では、地震により堤防が沈下しても沿川が浸水することは想定されず、津波により沿川が浸水することも想定されません。

現在では、**櫛井川では、時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成**しています。**新家川では、JR阪和線上下流の約100m区間で、現在、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を安全に流下させることができる河川整備を実施**しています。

3.1 榑井川水系の目標

氾濫想定（榑井川）

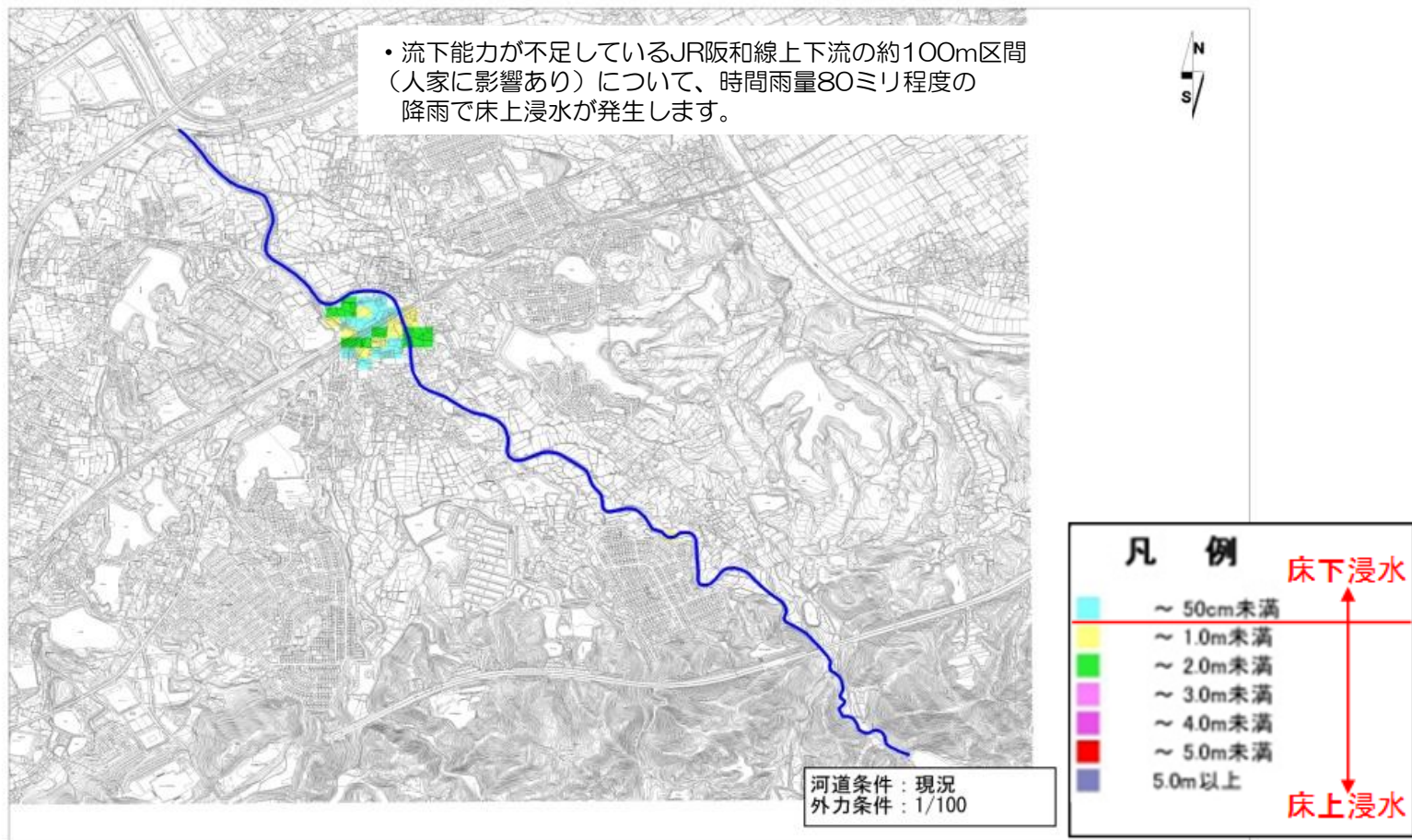
現状の榑井川水系で時間雨量80ミリ程度の雨が降った場合



3.1 榑井川水系の目標

氾濫想定（新家川）

現状の榑井川水系で時間雨量80ミリ程度の雨が降った場合



新家川湛水深図

1:20000

3.1 樫井川水系の目標

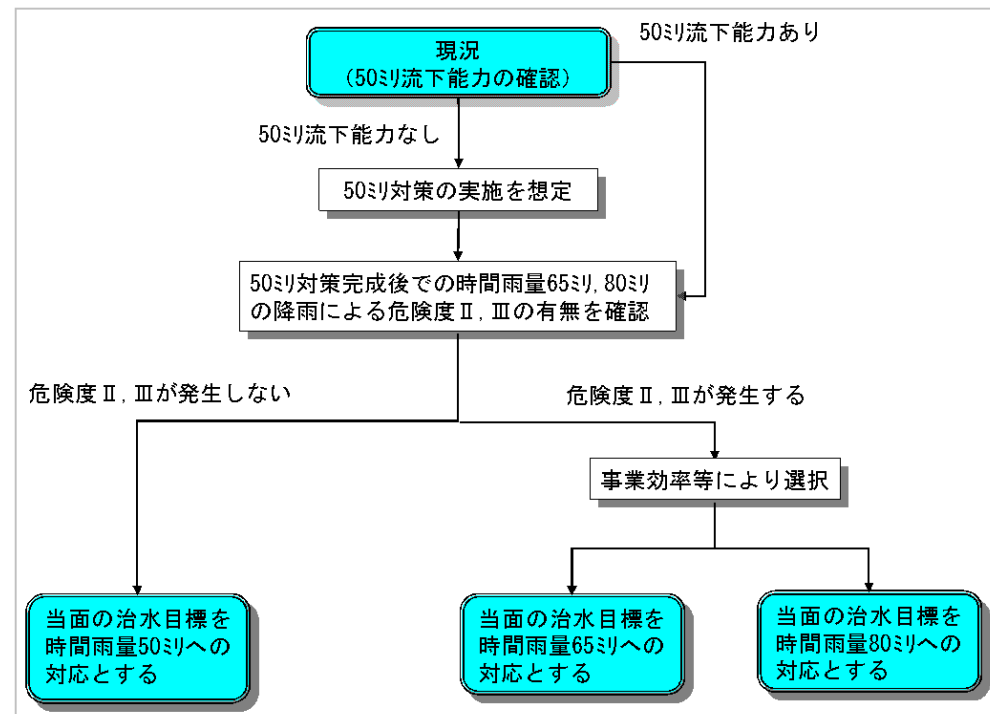
河川整備計画の目標

大阪府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の治水目標を河川毎に設定し、大阪府全域で時間雨量50ミリ程度)の降雨に対して床下浸水を防ぎ得るような河川整備を進めることを基本とします。

その上で、時間雨量65ミリ程度および時間雨量80ミリ程度の降雨で床上浸水以上の被害の恐れがある場合には、事業効率等を考慮して、時間雨量65ミリ程度もしくは80ミリ程度のいずれかの降雨による床上浸水を防ぐことを整備目標として選択することとしています。

樫井川は、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水で床上浸水以上の被害が想定されないことから、現状の治水能力を維持します。

新家川は、事業効率等を考慮して、時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水で床上浸水を防ぐことを当面の治水目標とします。



当面の治水目標設定フロー

3.1 樫井川水系の目標

流域の将来像

将来ビジョン・大阪

- ・ゲリラ豪雨対策をはじめとする総合的治水対策
- ・水質等良好な環境の創出・維持
- ・河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

泉佐野市（都市計画マスタープラン）

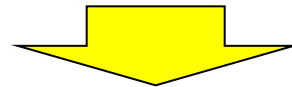
- ・自然環境や生態系と調和した河川空間の創出をめざし、府との連携・協力を強化し、水質保全・浄化や緑地保全をはじめ、親水機能や景観に配慮した治水対策の促進を図る。
- ・良好な自然環境を有する渓谷・河川などで保全を必要とするものについて、環境に配慮した整備を行う。
- ・自然環境や生態系との調和を図り、水質保全・浄化や緑地保全に努めるとともに、親水機能や景観に配慮した魅力ある水辺環境の整備を促進するため、府との連携・協力を強化する。

泉南市（第5次泉南市総合計画）

- ・防災や環境面に配慮した河川の維持改修をおこなうとともに、河川の管理を適切におこないます。

田尻町（第4次田尻町総合計画）

- ・河川や水路などの水辺環境を維持・改善し、人びとの憩いやうるおいの場、環境学習の場となるよう、上流域の泉佐野市も含めて住民、各種団体、事業者、行政の参画と協働のもとに、河川の美化や不法投棄の防止、水質保全対策などを総合的に進めます。
- ・河川などの改修にあたっては、生態系・周辺環境・景観に配慮するとともに関係機関に働きかけます。



樫井川水系では、防災、自然環境、景観、親水機能に配慮した維持管理、整備を行います。また水質の保全、改善に努めるとともに、河川の美化など適切な河川の管理を行います。

3.1 榎井川水系の目標

河川利用及び河川環境の現状と課題・目標

	現状と課題	目標
水質	<ul style="list-style-type: none"> 環境基準は、兎田橋より下流はE類型（環境基準点：榎井川橋、環境基準値BOD10mg/L以下）、兎田橋より上流はB類型（環境基準点：兎田橋、BOD3mg/L以下）に指定。 榎井川橋地点では、平成16年度以降、環境基準を満足しているが、兎田橋地点では、環境基準値を上回る年度が続いている。 魚類生息や親水性の向上の観点から見ると、更なる改善が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 榎井川の兎田橋より上流で環境基準の達成を目指すとともに、下水道等の関係機関や、地域住民との連携及び河川で活動している地域住民やNPO等と連携し、河川美化、環境教育などにより一層の改善を目指す。
水利用	<ul style="list-style-type: none"> 主に農業用水に利用されており、榎井川で19件、新家川で14件の灌漑用の水利権がある。 これまでに大きな渇水被害は生じていない。 安定的な水資源の確保に向け、今後も適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも、適正かつ効率的な水利用を目指す。
空間利用	<ul style="list-style-type: none"> 榎井川では、アドプト・リバー・プログラム、地域住民などにより、清掃活動等が行われているが、新家川では、水辺に近づきにくい状況にある。 榎井川では河道内へのアクセスの改善を図り、新家川では空間利用の実現を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民等のニーズに応じて、榎井川の中流・上流部では、河道内へのアクセスの改善を目指す。榎井川の河口～新兎田橋付近で、高水敷の利活用を図り、地域住民が愛着を持てる空間の形成を目指す。

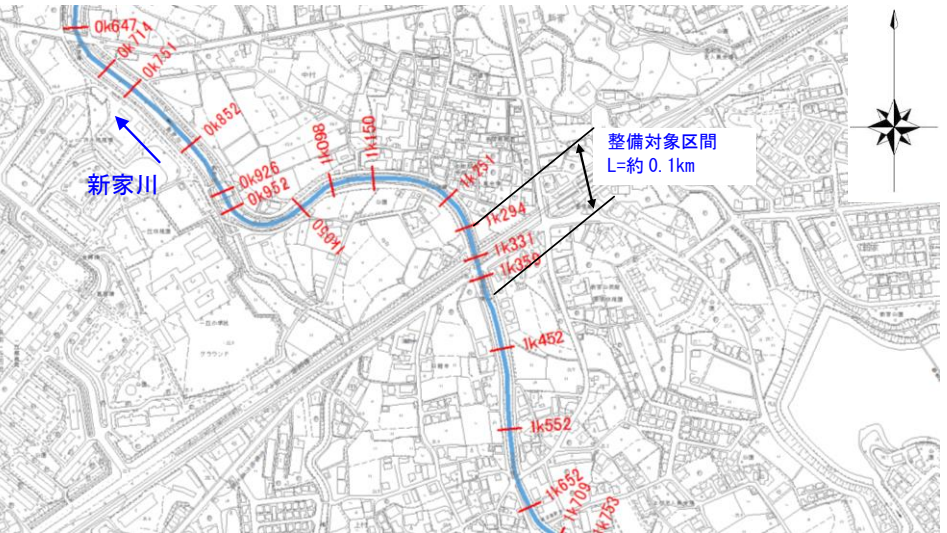
3.1 榑井川水系の目標

	現状と課題	目標
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊性魚類を含めた多くの水生生物等が生息しており、良好な自然環境が現存している。 榑井川では、取水堰や落差工等の23箇所の横断工作物のうち、魚道が設置されている等の遡上可能な河川横断工作物が4箇所、遡上困難な横断工作物が19箇所ある等縦断的な連続性が失われている。 ・榑井川の中・上流部及び新家川の瀬や淵、みお筋などの河川特有の自然環境が残る箇所については、今後の維持管理等の際に、それらの保全について配慮する必要がある。 榑井川の生物の移動を妨げる縦断的な連続性を改善する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い川幅を有する榑井川では、回遊性魚類を含めた水生生物の移動に配慮し、可能な限り下流から、落差工や利水関係者の協力が得られる等の取水堰について簡易的な魚道等の設置を検討するなど上下流の生物移動の連続性確保を目指す。また水系全体で瀬や淵、みお筋などの河川特有の自然環境が残る箇所についても、それらの保全を目指す。
景観・親水性	<ul style="list-style-type: none"> ・多くは農地を流下し、広がりのある景観となっている。河道内に発達した砂州には植生が見られ、特に榑井川下流部では、高水敷を有する複断面構造となっており、高水敷も含めて緑の多い自然空間が形成されている。 ・高水敷を有する河口～榑井川橋付近で、地域住民等のニーズに応じて高水敷の利活用と合わせて、更に親水性の向上を図るなどの配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・榑井川水系全体で、緑の多い自然空間や里山の景観など、現在の良好な景観の保全を目指す。特に広い高水敷を有する榑井川の河口～新兎田橋付近で、地域住民等のニーズに応じて、高水敷の利活用と合わせて、親水性の向上を図り、河川に親しめる場の形成を目指す。

3.2 榎井川水系で実施する整備

洪水対策 整備内容

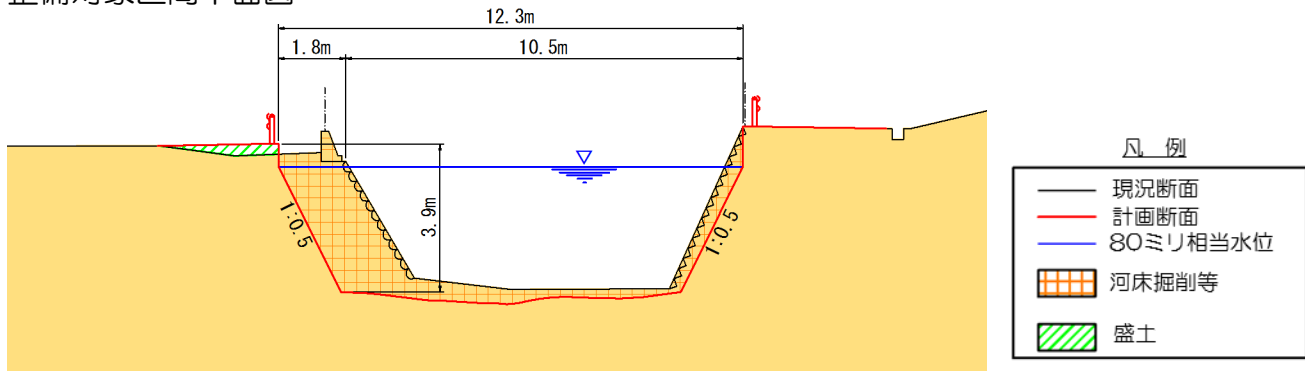
河川名	整備対象区間	延長	整備内容
新家川	JR阪和線下流 ～新家川橋上流 (1.3km付近～ 1.4km付近)	約0.1km	河道改修（拡幅、掘削等による断面拡大）により治水機能の向上を図ります。 河道改修に伴い、現在施工中のJR橋梁、JR橋梁直上流の道路橋の架け替え等を実施します。河道改修の際には、可能な限り自然環境への配慮に努めます。



整備対象区間平面図



JR阪和線橋梁
付近航空写真



整備断面例（1.3km付近，JR阪和線橋梁下流地点）

3.2 檜井川水系で実施する整備

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持の内容

- 継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握や取水堰等の流水の利用実態の調査を行う。

河川環境の整備と保全の内容

(1) 水質の改善

市町による行政指導や下水道施設整備・接続の促進、環境学習、啓発活動等を進めることにより、更に水質の改善に努める。檜井川兎田橋上流では、環境基準の達成に努める。

(2) 空間利用

地域住民等のニーズに応じて、檜井川の中流・上流部では、今後の維持管理等の際には、河道内へのアクセスの改善など河川空間の利用の向上に努め、檜井川の下流部では、関係機関等と連携し、地域住民が愛着を持てる空間として高水敷の利活用が図れるよう努める。

(3) 自然環境

檜井川では、水生生物の移動に配慮するため、生息状況等の調査を行い、その結果に基づき、簡易的な魚道等の設置について検討し、上下流の連続性の確保に努める。また、水系全体として、維持管理等の際に、瀬や淵などの自然環境が残る箇所について保全・再生に努める。

(4) 景観・親水

現在の良好な景観の保全に努めるとともに、檜井川の河口～新兎田橋においては、維持管理等の際に、高水敷の利活用と合わせて、住民等のニーズに応じて親水性の向上に努めます。

3.2 櫛井川水系で実施する整備

環境に配慮した整備

整備対象区間と整備内容

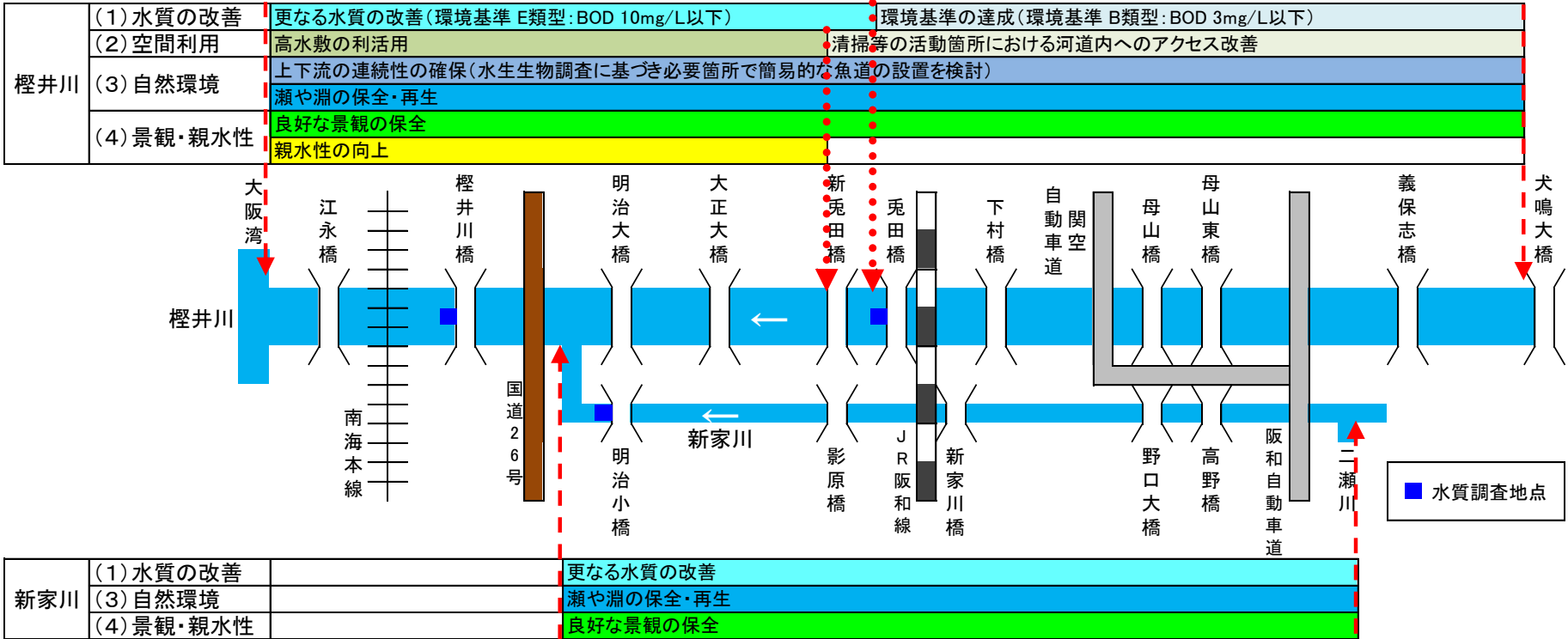
整備項目	整備区間		延長	整備内容
水質の改善	櫛井川	河口～兎田橋	約4.3km	市町による行政指導や下水道施設整備・接続の促進、環境学習、啓発活動等を進めることにより、更に水質の改善に努めます。 上記の活動等を進めることにより、環境基準の達成に努めます。
	新家川	府管理区間	4.4km	
	櫛井川	兎田橋～	※1	
空間利用	櫛井川	河口～新兎田橋	約4.1km	維持管理等の際に、住民等のニーズに応じて高水敷の利活用が図れるよう努めます。
		新兎田橋～ (アドプト・リバー・プログラム等の活動箇所)	※2	維持管理等の際に、清掃等の活動箇所では河道内へのアクセス改善など、住民等のニーズに応じて河川空間の利活用が図れるよう努めます。
自然環境	櫛井川	府管理区間	16.3km	水生生物の移動に配慮するため、生息状況等の調査を行い、その結果に基づき、簡易的な魚道等の設置について検討し、上下流の連続性の確保に努めます。
	水系全体		20.7km	維持管理等の際に、瀬や淵などの自然環境が残る箇所について保全・再生に努めます。
景観・親水性	水系全体	府管理区間	20.7km	現在の良好な景観の保全に努めます。
	櫛井川	河口～新兎田橋	約4.1km	維持管理等の際に、高水敷の利活用と合わせて、住民等のニーズに応じて親水性の向上に努めます。

※1：兎田橋地点の水質は環境基準値を満足しないが、上流域では環境基準値を満足していると想定される。環境基準値が満足しない範囲が限定できないため、具体的な整備延長は記載していない。

※2：上流域では河道内のアクセス改善等による自然環境の悪化も懸念されるため、具体的な整備延長は記載していない。

3.2 榎井川水系で実施する整備

環境に配慮した整備



環境整備対象区間概要図



土のうやふとんかごによる簡易的な魚道のイメージ図

3.2 榑井川水系で実施する整備

河川の維持管理

- 施設の定期点検や必要に応じた緊急点検を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握
- 人命を守ることを最優先に、危険度の高い箇所から計画的に補修
- 許可工作物の管理者に対しても、適切に点検を実施し、維持修繕を行うよう周知徹底
- 河川の土砂堆積、植生の繁茂及び河床低下については、その状況を定期的に調査し、計画的な維持管理、対策を実施
- 被災した際には、二次災害を防止するために応急的な対策を行い、出水後速やかに機能回復
- 河川区域で違法に行われている耕作、工作物の設置等を監視・是正するため、定期的に河川巡視、地域や関係機関との連携により、監視体制を重層化
- 不法投棄等のゴミに対して、河川巡視等において適宜回収、市町と連携した河川巡視、地域住民、ボランティア団体、自治体等と協働で定期的な河川美化活動



平成26年度末時点で榑井川水系で確認される損傷等

3.2 榎井川水系で実施する整備

河川の維持管理

整備対象区間と整備内容

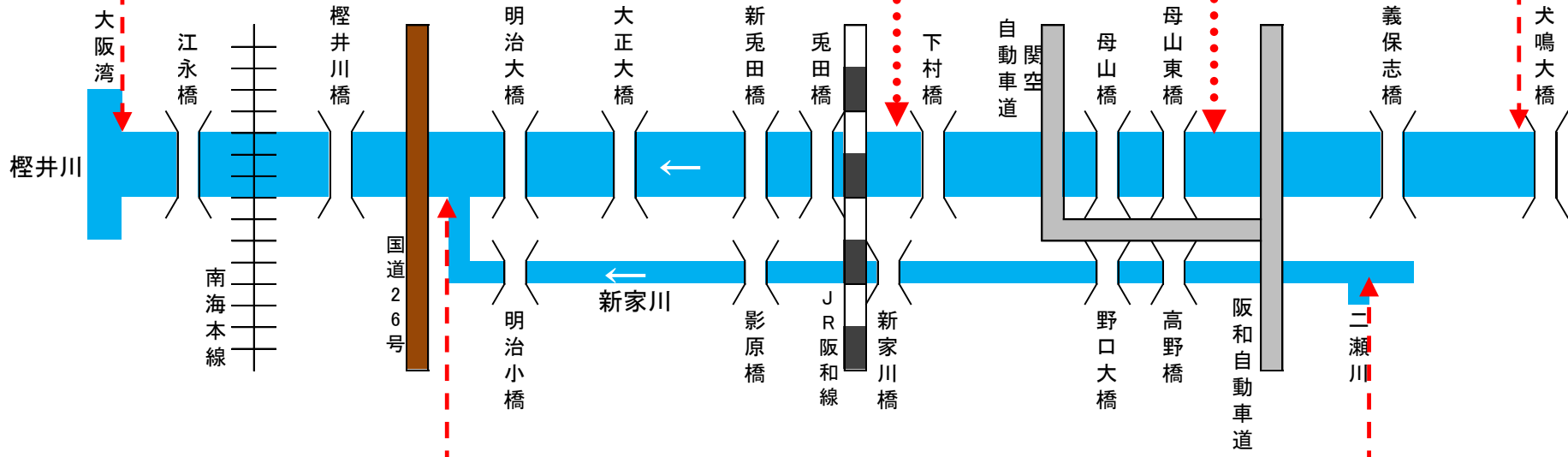
施設	区間		延長	整備内容
堤防	榎井川	河口～下村橋下流	約4.9km	陥没、土砂流出、植生繁茂等。
	新家川	—	—	
護岸	榎井川	下流部（～母山東橋上流）	約7.6km	護岸背面土砂流出、護岸のクラック等。
		上流部（母山東橋上流～）	約8.7km	護岸の流出、護岸のクラック等。
	新家川	下流部（～高野橋）	約2.9km	護岸背面土砂流出等。
		上流部（高野橋～）	約1.5km	護岸の損傷、隙間、クラック等。
河道	榎井川	下流部（～母山東橋上流）	約7.6km	土砂堆積、局所洗掘、植生繁茂等。堆積土砂は、生物の生息環境等に配慮しながら除去します。
		上流部（母山東橋上流～）	約8.7km	局所洗掘等。
	新家川	下流部（～高野橋）	約2.9km	土砂堆積、植生繁茂等。堆積土砂は、生物の生息環境等に配慮しながら除去します。
		上流部（高野橋～）	約1.5km	局所洗掘等。
その他	榎井川	下流部（～母山東橋上流）	約7.6km	護床ブロックの流出、管理用通路舗装のクラック、転落防止柵の損傷等。
		上流部（母山東橋上流～）	約8.7km	床止め本体、水叩きの損傷等。
	新家川	下流部（～高野橋）	約2.9km	護床ブロック流出、管理用通路舗装のクラック・沈下、転落防止柵の損傷等。
許可工作物	榎井川	府管理区間	16.3km	施設管理者に対し、施設の点検及び維持、修繕を実施するよう指導します。
	新家川		4.4km	
河川空間の管理	榎井川	府管理区間	16.3km	違法耕作、工作物の設置、不法投棄に対し、河川巡視を行い、関係機関、地域住民等と協働で環境美化活動等を実施します。
	新家川		4.4km	

※堤防、護岸、河道、その他の実施内容は平成26年度末時点の点検結果より既存の代表的な不具合内容を記載。今後、維持管理計画に基づき、既存及び新規の不具合箇所に対して適切な対策を実施する。

3.2 榑井川水系で実施する整備

河川の維持管理

河川	施設	実施内容
榑井川	堤防	陥没、土砂流出、植生繁茂等。
	護岸	護岸背面土砂流出、護岸のクラック等。
	河道	土砂堆積、局所洗掘、植生繁茂等。堆積土砂は、生物の生息環境等に配慮しながら除去します。
	その他	護床ブロックの流出、管理用通路舗装のクラック、転落防止柵の損傷等。
	許可工作物	施設管理者に対し、施設の点検及び維持、修繕を実施するよう指導します。
	河川空間の管理	違法耕作、工作物の設置、不法投棄に対し、河川巡視を行い、関係機関、地域住民等と協働で環境美化活動等を実施します。



新家川	堤防	—
	護岸	護岸背面土砂流出等。
	河道	土砂堆積、植生繁茂等。堆積土砂は、生物の生息環境等に配慮しながら除去します。
	その他	護床ブロック流出、管理用通路舗装のクラック・沈下、転落防止柵の損傷等。
	許可工作物	施設管理者に対し、施設の点検及び維持、修繕を実施するよう指導します。
	河川空間の管理	違法耕作、工作物の設置、不法投棄に対し、河川巡視を行い、関係機関、地域住民等と協働で環境美化活動等を実施します。

3.3 流域全体で実施する対策

河川情報の提供

- ・ 河川氾濫・浸水・地震・津波に関する情報については、住民が的確に避難行動をとれるよう、市町と連携した情報提供の実施
- ・ 情報提供にあたっては、行政からの一方的なものにとどまらず、地域特性に応じたものとなるよう、ワークショップ等を通じて、住民からの過去の浸水被害等の情報を取り入れ構築
 - ① 現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
 - ② 必要な情報の提供及び伝達
 - ③ 住民の防災意識の醸成

具体的な取り組み

- ①現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
- ②必要な情報の提供・伝達（洪水リスク図、地域単位のワークショップ等）
- ③住民の防災意識の醸成
- ④ホームページ、地上波デジタル放送等での情報提供



地域版水防災マップのイメージ



まち歩きの状況



手作りハザードマップと作成風景



3.3 流域全体で実施する対策

1) 洪水はん濫・浸水の危険性の周知

- 現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、樫井川水系では洪水リスク表示図を開示しています。
- この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度（約1/10）、時間雨量65ミリ程度（約1/30）、時間雨量80ミリ程度（約1/100）、時間雨量90ミリ程度（約1/200）降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度（3段階）、最大浸水深（7段階）の2パターンで表示します。

洪水リスク表示図

【大阪府 洪水リスク表示図】 <http://www.river.pref.osaka.jp/>

家にパソコンがなくても、泉佐野市役所、泉南市役所、田尻町役場、大阪府岸和田土木事務所などで閲覧できます。



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

地先における河川氾濫や浸水の可能性を確認できます。

3.3 流域全体で実施する対策

2) 大阪府などによる情報提供

- 大阪府では、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供をしています。

防災情報

【おおさか防災ネット】

<http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

防災情報を携帯電話で入手できます。
下のQRコードを携帯電話で読み込むか、下記アドレスを入力し、空メールを送信してください。

川の防災情報

雨量の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。
<http://l.river.go.jp/>
直接アクセスしてください。



大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。
<http://www-cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>
直接アクセスしてください。



防災情報メール

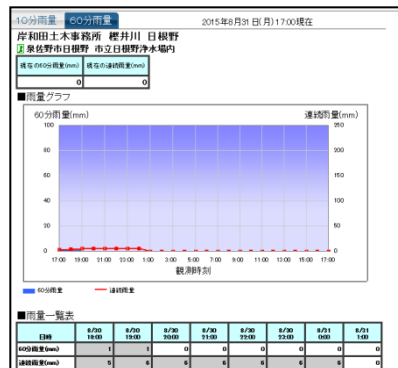
地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。
touroku@osaka-bousai.net



【大阪府河川室 河川防災情報】 樫井川水系流域の雨量、流域内主要河川の水位状況などを確認できます。

<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>

河川防災情報 大阪府河川室
Rivers in Osaka
更新
見出し
樫井川



【大阪府河川室 画像公開システム】

<http://www.osaka-pref-rivercam.info/>



3.3 流域全体で実施する対策

地域や関係機関との連携

「防ぐ」

- 河川愛護活動への支援（地域住民、NPO）
- 地域住民やNPO団体と河川環境の保全・再生・美化活動など連携した維持管理の実施

「凌ぐ」

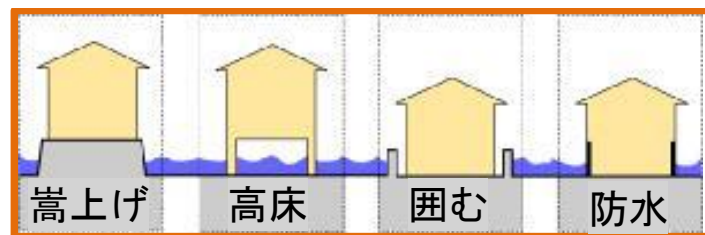
- ため池の雨水貯留機能の保全（ため池管理者や関係団体）
- 道路、公園、学校グラウンド等を利用した雨水貯留施設の設置（施設管理者）
- 住宅等の開発行為に伴う調整池の恒久化（開発事業者）
- 農地・森林の保全（水源涵養、保水機能）
- 各戸貯留施設の設置（地域住民への啓発活動）
- 建物の耐水化、土地利用の誘導（河川氾濫時、流水時）

「逃げる」

- 情報提供（地域住民 泉佐野市、泉南市、田尻町）



地域住民等と連携した維持管理
(アプト・リバー・プログラム)



建物の耐水化

